



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	社会言語学の観点から見る日本語とタイ語における人称詞の使用・不使用(論文要旨)
Author(s)	ルンキーラティクン,カノック
Citation	
Issue Date	2017-03-23
URL	http://hdl.handle.net/2309/149110
Publisher	
Rights	

氏名	： ルンキーラティクン, カノック (Kanok Runggeratigul)		
専攻分野の名称	： 博士 (教育学)		
学位記番号	： 博乙第91号		
学位授与年月日	： 平成29年3月23日		
学位授与の要件	： 学位規則第4条第2項該当 論文博士		
学位論文名	： 社会言語学の観点から見る日本語とタイ語における人称詞の使用・不使用		
論文審査委員	： (主査)	教授	齋藤 ひろみ
	(副査)	教授	高橋 久子
		教授	安部 朋世
		教授	河野 俊之
		教授	松井 智子

学位論文要旨

タイの日本語教育機関のほとんどでは、従来から日本語の文法を重要視し、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という四つの技能を日本語学習者に教えることを中心にしている。しかし、実際に日本人とコミュニケーションするときには、単に日本語の文法を正しく使えるだけでは不十分であり、コミュニケーションがうまくいかない場合が多い。これは、日本の文化や社会的な背景を十分に理解しないと、日本人とのコミュニケーションの際に、誤解が生じてしまう可能性があるからである。従って、日本語を学習する際には、日本文化および社会的背景などを日本語とともに、理解していく必要があると考えられる。本研究は、文化的・社会的な相違点から見た日・タイの会話における人称詞の使用・不使用を総合的に比較検討することを目的としている。

本研究の方法としては、まず、対訳資料を分析して、日本語とタイ語における人称詞の使用頻度の差について検討した。続いて、日本語およびタイ語の人称詞使用・不使用について、小説資料の分析やアンケート調査を通し、話者の属性及び聞き手との関係性、例えば年齢差、性別差、上下関係、親疎関係、などの社会的要因を詳しく比較検討した。最後に、両言語の人称詞、特に自称詞と対称詞の不使用を中心にアンケート調査結果に基づいて、Brown & Levinson (1987) の丁寧表現理論と滝浦 (2008) の「距離」概念との関連を考察する。日本人とタイ人における人称詞の不使用は、状況によって自分と相手との距離を大きくしようという遠隔化の方向性を持ち、また、距離を小さくし、相手に近づきたいという近接化の方向性を持つ機能がある。その結果、人称詞の使用・不使用の相違点としては、日・タイの社会的・文化的価値観という背景が日本語およびタイ語の表現にそれぞれ反映しており、以下のようなことがわかった。

1. 日本語の表現の特徴、例えば、授受表現、希望・要求・感情を表わす表現、意見を述べる表現または、情報や感情を確認する言い方、受身文・自動詞の文、親族名称の使い方および敬語の文は代名詞の省略を促すために、タイ語より人称詞の使用頻度が少ないことが明らかになった。

2. タイ人は自称詞の不使用が対称詞の不使用より多いのに対し、日本人は対称詞の不使用が多い。これは、タイ人は自己を重視するのにに対し、日本人は対人関係を重視することの反映であると考えられる。
3. 初対面の相手や親しくない相手に対して日本とタイの女性は男性より人称詞を使わない傾向がある。女性は礼儀を考慮し、男性よりも、自称詞と対称詞についてどのようなことばを選んで使って良いかを、聞き手の性別・親疎関係・上下関係・年齢差などの条件により判断しなければならぬ。このような男女の異なる言語行動は、実際の会話において「女らしさ」の言語行動が両国の社会に期待されていることを反映していると考えられる。
4. 人称詞の不使用において、日本人とタイ人の対人意識の違いがみられた。タイ人が人称詞をあまり使わないことには、相手と距離を大きくしようとする、あるいは逆に、相手に近づこうとするという心理的要因がある。これに対して、日本人は適正と感じる心理的距離がタイ人よりも大きいため、相手との距離を広げるためにのみ、人称詞の不使用を選択する傾向が強いと考えられる。
5. タイ人は年齢の上下と親疎関係を優先的に考慮しながら、自称詞と対称詞を使用するか否かを判断する傾向が見られる。これに対して日本人の場合では、まず「ウチ・ソト」と上下関係を考慮し、人称詞の使用・不使用を選ぶ傾向がある。
6. 日本人とタイ人は初対面の人に人称詞を使わない傾向が多く見られる。初対面の相手に対する人称詞の不使用は相手との距離を強く意識していることのあらわれだが、日本人の場合には相手に配慮する気持ちと共に、距離を保ちたいという考えが反映されていると考えられる。
7. 日本人は目上と会話する際、敬語を使用するため、人称詞の不使用が多い。一方、タイ人は目上への敬意を表す手段として、自称詞と対称詞をよく使用する。
8. 日本人の自称詞・対称詞不使用は、社会的要因や心理的要因には関係なく、単に文脈での必要性がないという考えが少なくない。これは、自分や相手を表す言葉はなるべく使わないといった日本語の特質を支持する傾向が見られ、タイ語よりも日本語自体の性質が相手を配慮するような礼儀性に強く結び付けられると言えるであろう。